

大分県

森林環境税の取組み実績

令和5年度の事業概要

農林水産部 森との共生推進室

目 次

大分県森林環境税の概要	1
大分県森林環境税の積立・執行状況	2
令和5年度大分県森林環境税活用事業一覧表	3

I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林づくり

1. 災害に強い森林づくり推進事業・環境林整備事業	4
2. 安全・安心な道路環境創出事業	6
3. 鳥獣被害総合対策事業	8
4. 森と海をつなぐ環境保全推進事業	9
5. 森と海をつなぐ環境保全推進事業(流木等被害対策緊急防除事業)	11

II 森林資源と循環利用による地域活性化

1. 再造林促進事業	12
2. 優良竹林化・利活用推進事業	14
3. 竹産業振興対策事業(竹林楽校)	16

III 森を守り親しみ、次世代につなぐ取組

1. 魅力ある景観づくり推進事業	17
2. おもてなしの道路等環境整備事業	18
3. みんなで支える森林づくり推進事業	
① 森フェス	19
② 新たな森林づくり推進体制整備事業	20
③ 森林づくりボランティア支援事業	23
④ おおいたの森林づくり広報推進事業	27
4. 森林・林業教育促進事業	
① 森林林業教育促進事業	30
② 森林林業教育支援事業	32
③ 森林林業教材作成事業	33
④ 森の先生派遣事業	34
⑤ 名樹とのふれあい事業	36
⑥ 次代の森林づくり活動リーダー育成事業	37
5. 森の子学校体験活動推進事業	40
6. 森林環境学習促進事業	42
7. 特別支援教育振興事業	44
8. 未来の環境を守る人づくり事業	46
9. 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業	48
10. 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク施設整備事業	52
11. 森・川・海つながり実感！プロジェクト	53

大分県森林環境税の概要

1 大分県森林環境税導入の目的

森林環境の保全と、森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成のための施策に必要な財源を確保するため、平成18年度から県民税の特例として森林環境税を導入した。

2 大分県森林環境税の概要

- 期 間 税の特例期間：5年
第Ⅰ期：平成18年度～平成22年度
第Ⅱ期：平成23年度～平成27年度
第Ⅲ期：平成28年度～令和2年度
第Ⅳ期：令和3年度～令和7年度
- 税 額 個人…年額 500円
法人…年額 1,000円～40,000円（法人県民税（均等割額）の5%）
- 税 収 単年度 約3億3千万円
- 管理・運営 ・徴収した税は「森林環境保全基金」に積立て、他の事業と区別し活用
・基金の適正な運用を図るため、第三者機関「大分県森林づくり委員会」を設置し、事業の審査や成果の検証等を実施

3 大分県森林環境税の使途

下記のテーマに沿い、荒廃した森林の整備や、再造林の推進、木材の需要拡大、県民が自ら提案し実行する森林づくりの支援、森林ボランティア活動の推進等の事業を実施

<第Ⅰ期 平成18年度～平成22年度>

テーマ：県民主導、個性豊かな取組、
多くの県民が参加する仕組みづくり

- I 県民意識の醸成
- II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり
- III 持続的経営が可能な森林づくり
- IV 遊び、学ぶ森林づくり

<第Ⅱ期 平成23年度～平成27年度>

テーマ：県民生活を守り、地球環境保全に
つながる森林づくり

- I 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備
- II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用
- III 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

<第Ⅲ期 平成28年度～令和2年度>

テーマ：自然豊かな大分の魅力を育む
持続可能な森林づくり

- I 県民生活と自然環境を守る森林づくり
- II 森林資源の循環利用による地域活性化
- III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組

<第Ⅳ期 令和3年度～令和7年度>

テーマ：大分の豊かな森林と
木のある暮らしを次世代へ

- I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林づくり
- II 森林資源の循環利用による地域活性化
- III 森林を守り親しみ、次世代につなぐ取組

大分県森林環境税の積立・執行状況

<第Ⅰ期> (H18~H22)

1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	H18	H19	H20	H21	H22	合計
基金積立額	200,781	295,120	309,363	306,987	302,495	1,414,746

2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績						割合(%)
	H18	H19	H20	H21	H22	合計	
I 県民意識の醸成	23,264	38,986	41,034	37,477	28,075	168,836	13.7
II 環境を守り災害を防ぐ 森林づくり	77,325	110,919	102,612	137,995	195,344	624,195	50.7
III 持続的経営が可能な 森林づくり	39,740	69,371	78,595	78,595	87,154	353,455	28.6
IV 遊び学ぶ森林づくり	14,706	23,231	22,150	14,729	11,027	85,843	7.0
合計	155,035	242,507	244,391	268,796	321,600	1,232,329	100

<第Ⅱ期> (H23~H27)

1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	H23	H24	H25	H26	H27	合計
基金積立額	304,011	305,745	307,590	306,164	307,609	1,531,119

2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績					合計	割合(%)
	H23	H24	H25	H26	H27		
I 災害に強く生物多様性に 配慮した森林の整備	165,192	160,790	133,267	151,271	151,515	762,035	46.6
II 低炭素社会に向けた森林 資源の確保と循環利用	151,090	105,251	142,308	93,772	88,837	581,258	35.6
III 県民参加の輪を広げ 次世代へつなぐ取組	46,050	45,447	56,115	61,921	80,986	290,519	17.8
合計	362,332	311,488	331,690	306,964	321,338	1,633,812	100

<第Ⅲ期> (H28~R2)

1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	H28	H29	H30	R1	R2	合計
基金積立額	315,240	317,844	321,592	322,917	324,642	1,602,235

2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績					合計	割合(%)
	H28	H29	H30	R1	R2		
I 県民生活と自然環境を 守る森林づくり	147,051	130,814	121,422	141,481	180,442	721,210	46.7
II 森林資源の循環利用に よる地域活性化	87,943	87,134	115,041	110,669	117,519	518,306	33.5
III 森にふれ親しみ、 森林づくりを支える取組	51,105	66,623	79,918	58,312	49,867	305,825	19.8
合計	286,099	284,571	316,381	310,462	347,828	1,545,341	100

<第Ⅳ期> (R3~R7)

1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	合計
基金積立額	322,906	324,070	345,300	—	—	992,276

2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績					合計	割合(%)
	R3	R4	R5	R6	R7		
I 県民の暮らしを守る 安全・安心の森林づくり	140,751	133,922	142,954	—	—	417,627	45.2
II 森林資源の循環利用に よる地域活性化	112,761	120,126	121,540	—	—	354,427	38.4
III 森林を守り親しみ、 次世代につなぐ取組	45,693	44,616	61,394	—	—	151,703	16.4
合計	299,205	298,664	325,889	0	0	923,757	100

※基金積立額は、税収から市町村の徴収に要する経費を引いたもの ※千円未満四捨五入のため、合計が一致しない。

令和5年度 大分県森林環境税活用事業一覧表

(単位:千円)

	施策区分	事業名	事業費	担当課室	
I 県 安 心 の 暮 ら し づ を く る 安 全	1 災害に強い森林づくり	1-1 災害に強い森林づくり推進事業(旧:荒廃人工林緊急整備事業)(H30~)	29,063	森林整備室	
		1-2 環境林整備事業(R3~)	64	森林整備室	
		2 安全・安心な道路環境創出事業(R2~)	30,000	道路保全課	
	2 シカ被害対策の推進	3 鳥獣被害総合対策事業(旧:森林シカ被害防止総合対策事業)(H30~)	81,044	森との共生推進室	
		3 森・川・海をつなぐ環境の整備	4 森と海をつなぐ環境保全推進事業(H18~)	2,686	循環社会推進課
	5 森と海をつなぐ環境保全推進事業(H19~)		97	漁業管理課	
	計			142,954	
II 活 性 森 林 に 資 源 の 地 域 環	1 健全な人工林の循環と低コスト化の推進	1 再造林促進事業(H22~)	117,900	森林整備室	
		2 優良竹林化・利活用推進事業(旧:荒廃竹林整備・利活用推進事業)(R3~)	3,507	林産振興室	
	2 森林資源の利活用推進	3 竹産業等振興対策事業(H24~)	133	林産振興室	
	計			121,540	
III 森 林 を 守 り 親 し み 、 次 世 代 に つ な ぐ 取 組	1 里山林の保全活動の推進	1 魅力ある景観づくり推進事業(H25~)	4,961	都市・まちづくり推進課	
		2 おもてなしの道路環境整備事業(R5)	10,000	道路保全課	
	2 森林ボランティア活動の促進	3 みんなで支える森林づくり推進事業	14,028	森との共生推進室	
		①森フェス(R5~)	6,827		
		②新たな森林づくり推進体制整備事業(H17~)	873		
		③森林づくりボランティア支援センター事業(H19~)	3,193		
		④森林づくり提案事業(H18~)	1,632		
		⑤山村多面的機能発揮対策事業(H28~)	526		
	3 森林林業教育・森林ESDの推進	4 森林・林業教育促進事業	①森林林業教育促進事業(R3~)	3,736	森との共生推進室
			②森林林業教育支援事業(R5~)	440	
			③森林林業教材作成事業(R3~)	1,791	
			④森の先生派遣事業(H19~)	5,486	
			⑤名樹とのふれあい事業(H25~)	1,118	
			⑥次代の森林づくり活動リーダー育成事業(H18~)	2,240	
		5 森の子学校体験活動推進事業(R4~)	5,134	社会教育課	
		6 森林環境学習促進事業(H18~)	3,508	社会教育課	
		7 特別支援教育振興事業(R5)	2,591	特別支援教育課	
8 未来の環境を守る人づくり事業(H28~)		2,442	環境政策課		
4 森林づくりへの理解を広げる取組	9 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業(R3~)	1,477	高校教育課		
	10 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク施設整備事業(H29~)	1,202	自然保護推進室		
	11 森・川・海つながり実感！プロジェクト(R5~)	1,240	全国豊かな海づくり大会推進室		
計			61,394		
総事業費(各事業の千円未満四捨五入により、合計と一致しない)			325,889		

I - 1 災害に強い森林づくり推進事業・環境林整備事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林組合、森林所有者等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

平成24年7月の九州北部豪雨災害では、河岸の侵食により、河川沿いの手入れ不足の人工林が流木となり、下流域に被害を及ぼした。

また、尾根部や急傾斜地等の木材生産に適さない人工林では、皆伐後に再造林されずにそのまま放置され、公益的機能が低下した森林が発生している。

(2) 目的

河川沿いにおける流木発生の危険性が高い森林を対象に森林整備を行い、山地崩壊防止等の公益的機能が発揮できる森林に誘導する。

また、木材生産に適さない急傾斜地の尾根谷部について、広葉樹林化を推進することで、森林の公益的機能の高度発揮を図り、災害の発生を防止するための環境林を造成する。

(3) 事業内容

①河川沿いの森林整備

流木災害発生の恐れがある人工林地を更新伐により伐採し、流木の発生を未然に防ぐ。

伐採後は、自然植生の回復等により広葉樹林化を図る。

②環境林整備

木材生産に適さない概ね傾斜35度以上の尾根谷部の人工林において、紅葉樹による再造林を実施した森林所有者等に対し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

3 成果

更新伐により、人工林を伐採し、流木発生を抑制するとともに広葉樹林化を図った。

〔森林整備面積〕

	年度	R1	R2	R3	R4	R5	合計
河川沿い	計画	32ha	38ha	25ha	25ha	37ha	157ha
	実績	35ha	37ha	30ha	37ha	39ha	178ha
環境林整備	計画	-	-	10ha	10ha	10ha	30ha
	実績	-	-	-	7ha	0.2ha	7.2ha

4 今後の課題と取組

河川沿いの森林整備事業による広葉樹林化を引き続き推進するとともに、治山事業等と連携した流域単位での流木被害対策を図ることで、今後も災害に強い森林づくりを推進していく。

また、各市町村及び森林組合等を通じて、木材生産に適さない人工林の針広混交林化や広葉樹林化の普及啓発を更に進め、公益的機能の高い環境林の造成を推進する。

5 実施状況写真（河川沿いの森林整備）



(実施前)



(実施後)

【施業地 事例】臼杵市大字野田字小倉山

I - 2 安全・安心な道路環境創出事業

【道路保全課】

1 実施主体

大分県（土木事務所）

2 実施事業の概要

（1）現状と課題

道路沿線の森林は、道路と自然が調和した良好な景観の形成や運転者の快適な道路利用を促進する効果がある。

しかし近年、土地所有者の責任で管理すべき森林が、「所有者の高齢化」や「森林の大径化」等により、伐採の個人対応が困難となり、適切に管理されていない状況である。これにより、台風・豪雨時には多くの倒木被害が発生し、孤立集落の発生や災害復旧活動への妨げが大きな問題となっている。

（2）目的

災害発生時に、倒木により道路を塞ぐなど甚大な被害につながる恐れのある樹木を対象に事前伐採を行い、安全・安心な道路環境の創出や防災力強化の取り組みを推進する。

（3）事業内容

県管理道路の沿線において、倒木により甚大な被害につながる恐れのある樹木の伐採を行う。

3 成果

県管理道路沿線の事前伐採により、安全・安心な道路環境の創出や防災力の強化を図った。

令和5年度事業実施路線一覧表

由布市	別府湯布院線	1箇所
佐伯市	宇目清川線	1箇所
佐伯市	野津宇目線	1箇所
豊後大野市	中津留轟牧口停車場線	1箇所
豊後大野市	百枝大野線	1箇所
竹田市	高森竹田線	1箇所
日田市	国道212号	1箇所
日田市	玖珠天瀬線	1箇所
中津市	国道212号	2箇所
計	9路線	10箇所

4 今後の課題と取組

今後も、倒木発生時に「孤立集落の発生」や「災害復旧活動への妨げ」となる樹木の事前伐採を優先的に行い、安全・安心な道路環境の創出や防災力強化に努める。

5 実施状況写真

宇目清川線（佐伯市宇目大字南田原）

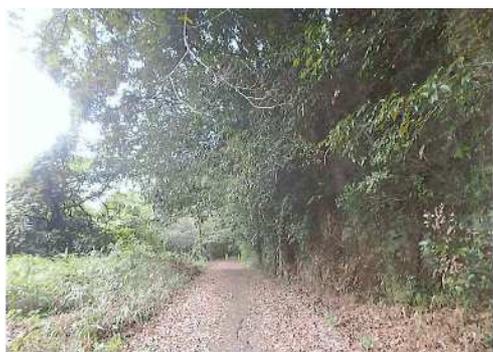


(実施前)



(実施後)

中津留轟牧口停車場線（豊後大野市清川町宇田枝）



(実施前)



(実施後)

玖珠天瀬線（日田市天瀬町馬原）



(実施前)



(実施後)

I - 3 鳥獣被害総合対策事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

ニホンジカによる林業被害は県内で約 2,400 万円に上り、横ばい傾向で、地域によっては依然として深刻な被害が懸念される。捕獲により生息頭数が減少している地域もあるが、未だに高密度地域も多いことから、稀少植物の食害等、生態系への影響が危惧される。

(2) 目的

シカによる林業・森林生態系被害は県内各地で発生しており、森林の有する公益的機能の低下が危惧されていることから、シカ捕獲の強化を行い、シカを適正な生息密度まで減少させることにより、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。

(3) 事業内容

シカの適正管理に向けた生息密度調査を実施するとともに、シカの捕獲報償金の上乗せ助成により捕獲圧強化を図り、生息密度及び被害の低減に向けた取組を推進する。

また、狩猟免許取得者を対象に、技術向上を目的としてスキルアップセミナーを実施し、より効果的な捕獲を推進する。

3 成果

捕獲報償金による捕獲強化が図られ、シカの適正管理及び被害防止に資する取組を推進することができた。

令和 5 年度捕獲報償金事業実績：40,523 頭

4 今後の課題と取組

(1) 課題

依然として県内のシカによる農林業被害は多く、適正な生息密度より高い状況にあり、引き続きシカ捕獲の推進による生息頭数の低減が必要である。

(2) 取組

再造林地やクヌギの萌芽へのシカ被害が発生していることから、引き続き、シカによる被害及び生息頭数を減少させるため、捕獲報償金による捕獲強化に取り組む。

I-4 森と海をつなぐ環境保全推進事業

【循環社会推進課】

1 実施主体

地区自治会、NPO等の団体

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

海岸漂着流木等は、下流域住民の生活や経済活動の障害であり、流木等の回収・切断や処理施設への搬送にかかる労働力と経費の負担が大きい。

(2) 目的

漂着流木等の処理に必要な費用を助成し、地区自治会やNPO等の団体による海岸の環境保全活動を推進する。

(3) 事業内容

団体名	場所	参加者数(人)	回収量(m ³)
NPO法人エー・ビー・シー野外教育センター	住吉浜海水浴場	56人	0.6m ³
NPO法人水辺に遊ぶ会	大新田海岸、三百間海岸	725人	7.6m ³
長洲アーバンデザイン会議	長洲海岸	300人	10m ³
一般社団法人 Mfisea	ビーコンプラザ	50人	—
佐伯市観光協会上浦支部	瀬会海岸、福泊海岸、 蒲戸海岸	220人	50m ³
NPO法人国東市手と手とまちづくりたい	国東市内海岸	500人	3.5m ³
大分県漁業協同組合 臼杵地区	臼杵市全域の海岸	480人	54m ³
天津地域づくり協議会	宇佐市布津部・宮熊に 面した海岸	325人	40m ³
日本風景街道 おおいた海への道推進協議会	大分県内9箇所の 海岸清掃	414人	21.3m ³
間越地区活性化推進協議会	間越海岸	66人	20m ³
杵築市まちピカ運動推進委員会	守江港海岸	250人	6m ³
カトリック臼杵幼稚園 いちご会	旧豊洋中学校前の海岸	95人	0.1m ³

3 成果

年度	R1	R2	R3	R4	R5
参加者数(人)	4,399	1,717	3,968	3,201	3,481
実施団体数(団体)	8	6	13	11	12

4 今後の課題と取組

令和5年度は申請団体数が12件、参加者数は3,481人と令和4年度より増加した。令和5年度の申請団体のうち、新規申請は1団体と少ないが昨年よりも全体的に参加者の年齢層や実施内容について幅が広がった。

近年、海洋プラスチックごみ問題が大きな問題となっており、陸に散乱した分解されない人工ごみが川等を通じて海に流出してしまわないよう、内陸部住民にもごみ問題への認識を深めてもらう必要があることから活動を通じて、森・川・海の流域全体を保全する意識の醸成を図ることとしたい。

5 実施状況写真



カトリック白杵幼稚園 いちご会 旧豊洋中学校前海岸清掃

I-5 森と海をつなぐ環境保全推進事業

(流木等被害対策緊急防除事業)

【漁業管理課】

1 実施主体

大分県漁業協同組合

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

台風、豪雨等により河川沿いの森林などから流出し、漁港や港湾内などに漂着・滞留する流木等が、漁業活動（操船、操業）の妨げとなり、回収・処理作業が終了するまで、漁業者は出漁することができない事例がある。

流木等の漂着ごみの回収・処理は、施設管理者や海岸管理者が実施する責務を有するが、処理数量の把握、業者の選定などに多大な時間を要することから、迅速な対応が困難となっている。

(2) 目的

漁港や港湾内などに漂着・滞留する災害由来流木等は、漁業活動の障害となるため、漁業者自らによる迅速な回収作業を推進することで、漁業被害の防止・軽減を図る。

(3) 事業内容

大分県漁業協同組合が実施する、流木等の回収に対して支援。

3 成果

令和5年度は8月の台風6号で流木が発生し、大神漁港で流木除去を行うことで漁業被害を防止した。

年度	R1	R2	R3	R4	R5
実施箇所数（港数）	1	5	—	1	1
処理量（m ³ ）又はトン数	1,338	235	—	4.5トン	3.7トン

4 今後の課題と取組

豪雨災害等による流木の発生状況調査を実施したうえで、漁業関係者と連携しつつ、優先度の高い地域から順に被害の防止・軽減に努める。

5 実施状況写真（令和5年 日出町大神漁港）



(実施前)



(実施後)

Ⅱ－１ 再造林促進事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林所有者、森林組合等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県内の人工林は利用期を迎えており、合板・集成材等の需要の増大に加え、木質バイオマス発電施設の稼働も追い風となり、国産材需要は増加傾向にある。

それに伴い、主伐も増加傾向にあることから、持続的な林業経営を行うためには、主伐後の確実な再造林が求められている。

(2) 目的

林業適地における疎植造林（低コスト再造林）を支援することにより、森林整備の育林コストを低減し、持続的な林業経営を推進する。また、早期に森林の公益的機能の回復を図る。

(3) 事業内容

伐採後の林業適地において、疎植造林(植栽本数 1,000～2,000 本/ha(法令による制限は遵守))を実施した森林所有者等に対し、大分県森林環境税を活用し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

3 成果

本事業を開始した平成 22 年度以降、再造林面積が増加し、再造林放棄地は減少している。また、平成 21 年度は県内でのスギ・ヒノキの疎植造林の割合が 44%であったが、令和 5 年度は 94%を占める割合となり、再造林のコスト縮減が図られた。

再造林促進事業の計画及び実績

(単位：ha)

年度	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
計画	850	1,000	1,000	926	950	1,000
実績	823	674	796	759	934	1,069

4 今後の課題と取組

各市町村及び森林組合等を通じて、低コスト再造林の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

5 実施状況写真



Ⅱ－２ 優良竹林化・利活用推進事業

【林産振興室】

1 実施主体

森林組合、タケノコ生産団体、竹林生産者等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

竹材、タケノコ需要量は外国産や代替品等の台頭により減少し、放置竹林が増加している。

(2) 目的

竹材、タケノコ生産地として持続的管理が見込める荒廃竹林の再生を推進する。

(3) 事業内容

竹材、タケノコ生産地として持続管理や竹チップ等の利活用を推進するための竹林整備及び簡易作業路開設等を行う。

3 成果

タケノコ・竹林生産等の利活用を促進し、持続管理を図るための竹林整備を実施できた。

① 伐竹等整備

2.85ha (別府市、杵築市、臼杵市、日田市、豊後高田市)

② 簡易作業路開設

285m (杵築市、日田市)

4 今後の課題と取組

竹林を有効活用するため、たけのこ生産竹林楽校等の取組により竹林整備の担い手を育成するとともに、優良竹林化の事業を継続し、タケノコ及び竹材の生産振興とともに竹林の整備を推進する。

5 実施状況写真



Ⅱ－３ 竹産業等振興対策事業（竹林楽校）

【林産振興室】

1 実施主体

大分県（林産振興室）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

本県は全国２位の竹林面積を有しているが、代替素材の普及等により竹材利用量は減少傾向にあり、荒廃竹林増加の一因になっている。また、伐竹作業員の高齢化・後継者不足も課題となっている。

（２）目的

たけのこ生産や竹材管理に関する基本的な知識や技術等を学ぶ竹林楽校を開催し、竹林を持続的に整備する竹林管理者を確保・育成する。

（３）事業内容

- ①たけのこ生産竹林楽校・・・基礎知識、伐竹・収穫実習、先進地視察等
研修生２５名／研修３回実施
- ②竹林楽校特別研修・・・伐採技術研修を①の研修と併せて２回開催
竹工芸訓練センター訓練生１２名
大分林業アカデミー研修生 ９名

3 成果

たけのこ生産竹林楽校と竹工芸訓練センター訓練生および大分林業アカデミー研修生の特別研修を同時に行うことによって、様々な視点からの活発な意見交換ができた。

第２回の実習では、たけのこ生産と竹材生産の２コースに生徒を振り分け、生徒の受講目的に沿った竹林管理方法について、十分な時間を確保して研修を行うことが出来た。

4 今後の課題と取組

たけのこや小径竹材、竹工芸用材を生産する担い手の高齢化や後継者不足が深刻な課題であるため、引き続き研修等の幅広いPRを行うと共に、補助事業により竹林の持続的な管理と、人材確保を推進する。

5 実施状況写真



Ⅲ－１ 魅力ある景観づくり推進事業（景観伐採事業）

【都市・まちづくり推進課】

1 実施主体

3市（竹田市・宇佐市・玖珠町）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

県内には、豊かな自然環境から創出された景観資源が多数あるが、手入れをされず放置された樹木等により、景観が阻害されている箇所が多く見受けられる。

（２）目的

観光ルート沿線等において、景観の支障となっている樹木等を伐採することにより、景観を再生する。

（３）事業内容

景観の支障となっている樹木等の伐採を行う市町村へ補助を行う。

実施主体	伐採箇所	補助率
市町村	国指定史跡岡城跡 近戸門付近（竹田市）、仙の岩（宇佐市）、大名庭園 旧久留島氏庭園（玖珠町）	1 / 2 以内

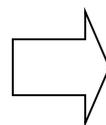
3 成果

- ・観光ルート沿線等の景観が再生され、観光客を受け入れる準備が整った。
- ・伐採後、地元団体により伐採箇所周辺の清掃活動や除草作業等、優れた景観を維持・活用しようという機運が高まった。

4 今後の課題と取組

景観の支障となる樹木のある土地が民有地の場合、協力を得られないケースがある。景観の再生につながった事例等を活用し、景観保全の重要性について理解を求めていく。

5 実施状況写真



国指定史跡岡城跡 近戸門付近（竹田市）

Ⅲ－２ おもてなしの道路等環境整備事業

【道路保全課】

1 実施主体

大分県（土木事務所）

2 実施事業の概要

「デスティネーションキャンペーン（DC）」の開催に備え、来県する観光客等へ安全かつ快適な道路環境等を提供するため、観光地等を結ぶ主要路線の草刈りや支障木伐採等を行うとともに、沿道の県管理トイレの修繕を実施するもの。

3 成果

県管理道路沿線の事前伐採により、おもてなしの道路等環境の創出強化を図った。

令和5年度事業実施路線一覧表(森林環境保全基金繰入金の対象箇所)

日出町	大分空港道路 糸原杵築線	1箇所
-----	--------------	-----

4 実施状況写真



(実施前)



(実施後)

大分空港道路 糸原杵築線（杵築市大字大内 外）

Ⅲ－３ みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

1. 次代につなぐ森づくり大会「森フェス」

(1) 実施主体

森フェス実行委員会（大分県・（公財）森林ネットおおいた）

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

県主催の森づくり大会は、植樹活動を中心に昭和31年から毎年、形式を変えながら継続して実施してきた。

令和4年度に開催した「第45回全国育樹祭」を契機として、次代につながる森林づくりを推進するため、森林・林業に興味・関心を持ってもらい、当県の森づくりを担い育てる人材の育成が求められている。

②目的

令和4年度に開催した全国育樹祭の「伐って使い、植えて育てる」、「次代につながる森林づくり」の取組みを一過性のものとしないうちに、子どもを主体とした森林・林業体験イベントを開催する。

③事業内容

森林や林業への関心を高めるため、子ども達を中心に親子も対象とした森林・林業の活動を楽しく体験できるイベントを開催。

日時：令和5年11月18日（土）10：00－14：00

場所：平成森林公園全国植樹祭記念広場（豊後大野市大野町藤北）

内容：式典、広場アクティビティ、林内アクティビティ

<広場アクティビティ>



ツリークライミング



丸太切り体験

その他、火起こし体験&マシュマロ焼き、積み木、ワークショップ（バードコーン、端材アート）、プレーパーク、育樹祭&林業パネル展示を実施。

<林内アクティビティ>



森林観察



伐採体験

その他、ネイチャーゲーム、紅葉ウォーキング&クイズラリーを実施。

(3) 成果

参加者数は341名で、親子や子どもたちが、森林内での体験活動や広場での様々なアクティビティを体験し、森林や林業に触れ親しむことができた。これにより、日常では自然や森、林業に関わる機会がない県民にも、森に親しむ入り口としての機会を提供することができた。

(4) 今後の課題と取り組み

多くの一般県民に参加を促すためには、開催場所も参加を検討する重要な要因となる。森林・林業体験を実施でき、かつ利便性の高い開催場所を検討するとともに、アクティビティを追加するなど、多くの県民が参加でき、次回も参加したいと感じる取組を推進する。

2. 新たな森林づくり推進体制整備事業

(1) 実施主体

大分県

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

大分県森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念として、税を活用した取組を進めている。しかしながら、その理念や取組については、県民に広く浸透していない状況である。

②目的

大分県森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、県森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による県森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

③事業内容

・「大分県森林づくり委員会」の開催

令和5年度は第4期大分県森林環境税の3年目であり、第4期の県森林環境税の活用を円滑に推進するため森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	R5. 8. 2	・令和4年度森林環境税活用事業の実績 ・令和5年度森林環境税活用事業の予算概要 ・県森林環境税と国の森林環境譲与税について
第2回	R5. 10. 26	・令和6年度森林環境税活用事業提案について ・県政モニターによる森林環境税の評価について
第3回	R5. 12. 26	会議 ・令和6年度県森林環境税事業予算要求状況について ・国の森林環境譲与税について 現地視察 ・A P U（立命館アジア太平洋大学）グリーンcommons ・コンテナ苗生産現場

・「森林づくり流域協議会」の開催

県内各流域における森林環境税活用事業の適正な運用のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPOなどが行う「森林づくり提案事業」の審査や事業成果の検証等を行った。

流域協議会	内容	開催回数
大分東部・大分中部 大分西部・大分北部 (4流域)	・「森林づくり提案事業」(公募事業) の審査、実績の検証 ・意見交換等	東部流域： 対面1回 他流域： 書面決議

(3) 成果

「大分県森林づくり委員会」では、県民の意見を取り入れることで、大分県森林環境税を適正に運用することができた。

また、「森林づくり流域協議会」では、各流域毎の森林づくり提案事業の審査・成果検証を審議し、事業趣旨に沿った取組を推進することができた。

(4) 今後の課題と取組

大分県森林環境税の創設の目的である「森林環境の保全」と「森林を守り育

てる意識を醸成」するため、多くの県民に大分県森林環境税や森林づくりに対する興味・関心を持ってもらうよう、一層の県民総参加の森林づくりを推進する。

大分県森林環境税活用事業については、激化する自然災害への対応、需要拡大に伴う人工林資源の利活用、森林林業教育のさらなる推進、SDGs や脱炭素の取組といった新たな動きへの対応など、変化する社会情勢に対応していくため、森林づくり委員会等により県民の意見を取り入れつつ、適正な運営を行う。

3. 森林づくりボランティア支援事業

(1) 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進している。ボランティア参加者数は令和元年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少したが、徐々に回復傾向にある。(令和5年度参加者数：12,309人)

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いことが現状である。

②目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

③事業内容

・森林づくりボランティア支援センター事業

大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、HPや情報誌の発行によって森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

ア 森林ボランティア情報の発信



センターHP



ボランティアセンター通信

HPでは、現在募集中のボランティア活動等について、広く情報の発信を行った(令和5年度は70回更新)。また、毎月森林づくりボランティア支援センター通信の発行・配布を行った。これらの積極的な情報発信によって、県民が自ら取り組む森林づくり活動の機会を提供することができた。

イ 森林づくりボランティア活動支援

★センターを通じた森林づくりボランティア活動支援の流れ

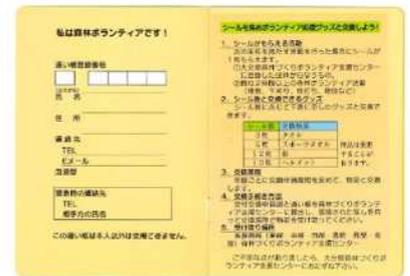
森林ボランティア登録者に対し、森林づくりボランティア通い帳を配布。活動に参加した登録者には活動証明シールを交付する。



森林づくり活動実績に応じて、令和5年度はタオル・鎌・鋸などの支援物29点を14名に交付した。



支援物品



森林づくりボランティア通い帳

ウ ボランティア活動技能向上研修

森林づくりボランティア従事者を対象とした「伐採等の業務に係る特別教育(チェーンソー)」、「刈払機取扱作業安全衛生教育」の受講を補助することによって、森林ボランティアの技術向上をはかった。

【研修の様子】

	参加回数	参加人数	内容
チェーンソー	3日×2回	5人	伐木作業の基礎知識。実習等
刈払機	1日×2回	2人	刈払機の基礎知識。実習等



実習



学科講習

【令和5年度森林づくりボランティア支援センター事業実績】

委託先：NPO 法人グリーンインストラクターおおいた	
1) 森林ボランティア情報の収集・発信	<ul style="list-style-type: none"> ・HPによる森林ボランティア情報の発信（70回更新/年） ・「大分県森林づくりボランティア支援センター通信」の発行（1,000部/月） ・森林づくりフィールドの募集および情報提供 <p>（① フィールド情報を募集②現地調査情報を登録③団体、企業等に斡旋）</p>
2) 森林ボランティアの登録（新規 個人65名、団体4組）	
3) ボランティア通い帳の発行（49冊）	
4) 森林づくりに関する相談、情報提供等	相談対応8件・・・植栽に関する指導・助言等
5) 森林づくり活動支援（人材斡旋7回、50人）	
6) センター施設を利用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用団体：9団体 ・年間利用者数：848人（累計）

4. 森林づくり提案事業

県民から提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

令和5年度 森林づくり提案事業 実績

振興局	整理番号	活動団体名	活動場所(市町村)	活動内容	新規継続	活動者数(人)
東部	1	夢咲き桜の会	国東市	除伐・下草刈り・植樹	継続	100
	2	護町会	杵築市	竹林整備	継続	53
中部	3	まつぼっくりの会	大分市	サクラ等植樹活動	継続	63
豊肥	4	神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市	神角寺溪谷の森林整備 (下刈り・モミジ・ヤマボウシ等植栽)	継続	62
	5	特定非営利活動法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	地域の児童等への森林環境教育 (自然観察・竹箸・門松づくり等)	継続	33
西部	6	200海里の森づくり 実行委員会	日田市	森林づくり活動	継続	200
北部	7	千部もみじ村	豊後高田市	しいたけ駒打ち体験 1回	新規	62
合計						573



伐竹作業（杵築市）



植樹活動（日田市）

5. 森林山村多面的機能発揮対策事業

森林経営計画の策定されていない森林を地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全、森林資源の利活用などの取組に対し国、県及び市町村が助成する（実施団体：9団体）

令和5年度市町村別活動団体数

大分市	4団体
由布市	2団体
杵築市	2団体
豊後大野市	1団体

・企業参画の森林づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。令和5年度までの協定締結企業は35社となっており、新たに2社が協定を締結した。

〈令和5年度 協定〉

- ・（株）ネクスト
- ・大東建託（株）



植樹の様子

（3）成果

森林ボランティア団体等を対象とした技能向上研修等によって、森林づくりボランティア団体員の知識と技術向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では7団体を対象に支援を行った。

森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ12,309人が森林ボランティア活動に参加することで、県民みんなで森林を守り育てる意識の醸成ができた。

【森林ボランティア団体・参加者数の推移】

年度	登録団体	登録個人（人）	参加者数（人）	目標参加者数（人）	達成率
H29	102	2,775	13,320	13,300	102%
H30	103	2,794	13,219	13,400	99%
R1	105	2,841	10,906	13,200	83%
R2	106	2,862	12,879	13,300	97%
R3	106	2,883	12,239	13,400	91%
R4	106	2,932	11,769	13,500	87%
R5	107	2,997	12,309	13,600	91%

（４）今後の課題と取り組み

参加者の高齢化や固定化という課題があるなか、毎月の通信の発行や、SNS の活用によって、森林ボランティアへの参加の促進につとめた。

引き続き県民に向けて情報発信を行うとともに、若い世代の森林ボランティア育成を推進する。

6. おおいたの森林づくり広報推進事業

（１）実施主体

大分県

（２）実施事業の概要

①目的

大分県森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

②事業内容

マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告 3回（大分県森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ テレビ・ラジオによる広報 18回（森林環境税事業のPR等）
- ・ Facebook ページによる情報発信（豊かな国の森林づくり Facebook）



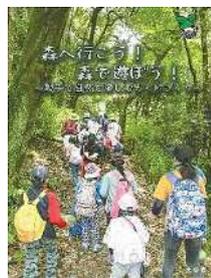
Facebook ページイメージ

その他の広報活動

- ・大分県森林環境税チラシ・パンフレットの配布
- ・各広報誌材の貸出（森林環境教育ガイドマップ、環境税タペストリー等）
- ・大分県森林環境税事業実績報告書を、市町村等へ配布。HP公開。
- ・マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、大分県森林環境税に関するPRを行った。
（R5もりりん貸出し回数：2回）
- ・「農林水産祭」等において、大分県森林環境税に関するコーナーを設置し、大分県森林環境税のPRを行った。
- ・森の先生派遣事業チラシの作成



森の先生チラシ



ガイドマップ



タペストリー



県環境税チラシ・パンフレット



PR用ばんそうこう

OPRの様子



もりりん着ぐるみによるPR



農林水産祭でのPRブース

(3) 成果

新聞広告やホームページなど各種媒体を活用し、大分県森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

(4) 今後の課題と取組

大分県森林環境税は第4期を迎えたが、未だに導入や用途について知らない県民も多い。そのため、今後もマスメディアやSNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行う。

Ⅲ－４ 森林・林業教育促進事業

【森との共生推進室】

1 森林林業教育促進事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「森づくり人材育成協議会」

(2) 実施事業の概要

① 目的

森林・林業教育、自然体験活動に関わる団体が連携し、指導者の養成や派遣、体験プログラムの作成などに取り組み、大分の豊かな森林づくりを担い支える、豊かな感性を持った人材を育成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や課題について指導することができる指導者を養成するため森林・林業教育を行う指導者育成研修を開催する。

また子どもの学びの段階に応じた森林・林業学習を推進するため、拠点となる体験フィールドを選定し、森林・林業副読本と連動する森林・林業体験プログラムを作成し、モデル校やみどりの少年団等で実施。

その他、体験型子ども科学館 0-Labo と連携した森-Labo を実施し、公募による森林・林業体験講座を実施。

③ 実績

○森林・林業教育指導者育成研修会開催実績（6回）

回	開催月日 時間	場 所	研 修 内 容		参加人数
			テ ー マ	講 師	
1	7月1日（土） 13:00～16:30	大分県森林づくりポラン ティア支援センター外	身近な自然と友達になる方法	樹木医 森林インストラクター 石井 誠治氏	36
2	8月26日（土） 13:00～16:00	大分県森林づくりポラン ティア支援センター	「大分の森林・林業」～豊かな森林資 源を生かした地域振興実現に向けて～	大分県林務管理課 主査 小関 崇氏	32
3	9月2日（土） 13:00～16:00	大分県森林づくりポラン ティア支援センター	木材のすすめ ～環境に優しい木質材料～	大分県林業研究部アドバイザー （農学博士） 城井 秀幸氏	32
4	12月12日（月） 9:15～16:30	① 農林水産研究指導セン ターきのこグループ ② 佐伯広域森林組合	① しいたけ栽培と流通 ② 木材の流通と加工	きのこグループ（甲斐副主幹） 森林組合（各担当）	30
5	1月27日（土） 10:00～12:00	大分県林業会館新館	① 学習指導要領における「森林・ 林業」の位置付けと教育活動 ②森林教育と教科融合的な取り組み （明治小学校の取り組み事例）	①京都教育大学 名誉教授 山下 宏文氏 ②佐伯市立明治小学校 校長 伊東 俊昭氏	35
6	2月17日（土） 10:00～15:00	① 高尾山自然公園 ② 大分県森林づくりポ ランティア支援センター 研修室	自然観察会など森林・林業体験学習活 動の進め方 修了式	森林・林業教育指導者 ① 渡辺 政治氏(全般) ② 瀬口 三樹弘氏(樹木)	20

○体験型森林講座森-Labo の開催実績（6回）

回	開催月日 時間	場 所	研修内容		参加人数
			テーマ	講師	
1	7月29日(土) 13:30-15:30	0-Labo(大分市)	木を科学する ～木のオモシロ実験～	大分県農林水産研究指導センター 林業研究部アドバイザー (農学博士) 城井 秀幸氏	26
2	8月19日(土) 13:00-16:00	0-Labo(大分市)	木のおうちをつくらう	一級建築士 板場 奈美氏 高橋 由美氏 湊 智子氏 安東 歩 氏 小関 公香氏	25
3	9月24日(日) 10:00-12:00	高尾山自然公園(大分市)	きのこってどんな生き物? ～君も探してみよう、不思議だらけの森のきのこ～	大分きのこ会 波多野 英治氏 (農学博士) 村上 康明氏	15
4	10月28日(土) 10:00-12:00	高尾山自然公園(大分市)	この木なんの木? ～森の木で遊ぼう～	大分県森林・林業教育指導者 伊藤 正行氏 江口 初男氏	15
5	11月25日(土) 10:00-12:00	高尾山自然公園(大分市)	秋は木のタネがおもしろい!	大分県森林・林業教育指導者 渡辺 政治氏 瀬口 三樹弘氏	9
6	12月2日(土) 13:00-15:00	高尾山自然公園(大分市) 大分県森林づくりボランティア 支援センター	野生動物のフィールドサインを探そう	大分県環境教育アドバイザー 森田 祐介氏	20
				合 計	110

④ 実施状況写真

- ・研修会開催の様子



研修会開催状況



現地実習

- ・森-Labo 開催の様子



木のオモシロ実験



きのこってどんな生き物?

(3) 成果

- ・森林・林業の現状や課題についての知識を持った「森林・林業教育指導者」育成研修会修了者39名を育成することができた。
- ・一般公募による森-Labo を開催することで、森林・林業に興味を持つ子ども達を広く募り、学びを深めることができた。

(4) 今後の課題と取組

指導者育成研修に関しては、3年間で99名養成した指導者のスキルアップの支援と、指導者の活躍の場の創出に努める。

また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、一般公募による森林体験教室を開催するなど、引き続き森林・林業教育の裾野を広げる取組を実施する。

2 森林林業教育支援事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「森づくり人材育成協議会」

(2) 実施事業の概要

① 目的

大分の豊かな森林づくりを担い支え、豊かな感性を持った子ども達を育成するため、学校教育等において森林や林業について専門家から直接学ぶ機会、また森林内や林業現場における体験学習の機会を創出する。

② 事業内容

森林・林業教育の実施に係る各種相談の窓口となり、県や関係機関と連絡調整を行う。また、森林・林業教育の実施に当たって、申請に応じ、講師の選定、派遣及びバス等の助成を行う。

③ 実績

○森林・林業教育支援校（4校）

NO.	学校等名称	事業内容			
		対象学年	活動場所	主なテーマ・趣旨	体験活動内容
1	別府大学 明星小学校	5年	①くじゅう九電の森（由布市） ②椎茸生産現場（別府市）	林業の仕事や大分名産椎茸に興味をもつ	林業講座 枝打ち作業 丸太切り
2	臼杵市立 臼杵南小学校	5, 6年	九電所有林（由布市）	林業について学ぶ	林業講座 丸太切り
3	国東市立 安岐中央小学校	特別支援 1年～5年	国東市安岐町の椎茸生産現場 （国東市）	地域の産業である椎茸について学ぼう	椎茸生産の流れ 椎茸の駒打ち体験 森林教室
4	佐伯市立 明治小学校	6年	佐伯広域森林組合	佐伯広域森林組合見学 産業としての林業を知る	森林組合製材所見学 森林教室

④ 実施状況写真



枝打ち体験



しいたけのコマ打ち体験

(3) 成果

林業の従事者やしいたけ生産者から直接学ぶ機会を提供し、また森林内や林業現場において実際に子ども達が体験する学習の場を提供することができた。

(4) 今後の課題と取組

学校などからの森林・林業体験に対する要望に柔軟に対応するため、体験学習を受け入れてくれる専門家やフィールドの確保は課題である。

地域の特性に応じた提案ができるよう、情報収集とネットワークの構築に努める。

3 森林林業教材作成事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「株式会社プランニング大分」

(2) 実施事業の概要

① 目的

学校教育を通じ、大分県の森林の現状及び県産材利用の意義等の理解を促進し、体系的、継続的な森林・林業教育を推進するため、学習指導要領に沿った大分県の森林・林業副読本を作成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や森林の持つ多面的機能、林業が果たす役割、森林や林業に携わる人々のインタビューなどを掲載したデジタル副読本を作成する。

小学校5年生社会、及び中学校技術家庭科の技術の授業で活用することを想定し、学習指導要領に沿った内容とし、またGIGAスクール構想のもと一人一台タブレットが配備された教育現場に適応した動画等を盛り込んだデジタル副読本とする。

また、指導者用ガイドブックを作成し、学習指導要領との関連性や活用例等を記載する。

③ 実績

作成した副読本は、導入となる使い方ガイドを県内の小学校5年生及び中学校1年生に配布し、県HPにアップしたデジタル副読本にアクセスして活用してもらう環境を整備した。

また、当県における森林・林業教育の事例や事業等を紹介する動画を作成し県ホームページに掲載することで、学校関係者等の取組みを推進ためのツールを整備することができた。



小学校5年生社会科用



中学校技術家庭技術用

(3) 成果

- ・大分の森林や林業について、教科書を補填する教材を作成することができた。
- ・森林や林業に携わる人々の声を動画により触れることができ、子ども達のキャリア教育にも活用できるものとなっている。

(4) 今後の課題と取組

副読本の内容を更新するとともに、副読本の効果的な活用方法の周知や利用促進のため、教育委員会と連携して教育現場への働きかけを行う。

4 森の先生派遣事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」

(2) 実施事業の概要

① 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

② 事業内容

保育所や幼稚園、小・中学校・放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

児童の安全に関する知識の習得及び指導力の向上を目的とした研修を実施する。

③ 実績

子どもを対象とした森林体験活動の実績

	R 3	R 4	R 5
派遣回数	78回	102回	98回
派遣人数	410人	497人	511人
森林体験者数	2,926人	3,898人	3,574人

森の先生や教育関係者を対象とした研修会開催実績

	R 3	R 4	R 5
研修会回数	2回	2回	2回
参加者数	46人	23人	24人

④ 実施状況写真

- ・森林体験学習の様子



自然観察会

- ・研修会の様子（森の先生ノウハウ共有）



冬の観察会実習



葉っぱになって冬を過ごそう

(3) 成果

- ・保育所や幼稚園、小・中学校・放課後児童クラブ等で開催される行事等に、森の先生を106回派遣し、3,574人が森林体験活動を体験した。

- ・令和5年度は森の先生を対象に研修会を行い、実際に学校現場で働いている方を講師として、現状に即した子どもたちへの接し方を学んだ。また、別の研修会では、森の先生同士でノウハウを共有することで、能力の更なる向上を図った。

(4) 今後の課題と取組

森林・林業教育の一環として活用されるよう、各教育機関にPRを行い、森の先生派遣事業の利用増加を図る。

また、森の先生の能力向上を目的とした研修を継続し、知識を共有する。

5 名樹とのふれあい事業

(1) 実施主体

市町村、大分県

(2) 実施事業の概要

①目的

県指定の特別保護樹木（林）のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

②事業内容

I 樹木医の診断に基づく樹木の治療

- ・不健全な樹木の保全 ……整枝、剪定、古枝除去など
- ・踏圧等による被害予防……進入防止柵設置など

II 特別保護樹木・林の標柱（標識）の設置・立替

③R4実績

- ・治療 2件 津久見市：ウバメガシ
白杵市：ナツメ
- ・標柱・標識の設置 1箇所 中津市：雲八幡神社の森

(3) 活動状況写真

①ウバメガシ（津久見市）の治療



治療前（他植物の浸食）



治療中の様子（剪定）

②雲八幡神社の森（中津市）の標識設置



設置後の標識

（４）今後の課題と取組

特別保護樹木（林）は樹齢が100年以上の古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図る。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

【活用例：城原神社の森（竹田市）での「森の先生」派遣による体験学習】



6 次代の森林づくり活動リーダー育成事業

（１）実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

（２）実施事業の概要

①現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

②目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図る。

③事業内容

「地域活動の強化」、「他の少年団との交流」、「リーダー候補生として育成」の3つのステップに沿った支援を実施している。

「地域活動の強化」

- ・少年団の地域活動への支援として、資材や機材の購入経費の補助を実施。



植樹活動



下刈作業

「リーダー候補生として育成（リーダー育成研修の開催）」

- ・世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施。

【参加者】 県下少年団

【行程等】 令和5年7月26日～28日（2泊3日）



屋久島環境文化村センター



ヤクスギランド

「他の少年団との交流」

- ・全少年団を対象とした交流会「つどい」を実施。

【参加者】 県下のみどりの少年団 計77名

【行程等】 令和5年8月3日～4日



活動発表



森林での体験学習



記念撮影

- ・ 県内みどりの少年団活動発表大会を実施。

【参加者】 県下のみどりの少年団 計5団

【行程等】 令和6年2月3日

各少年団団員がスライドを用いて令和5年度活動について報告した。発表後は選考会による審査を行い、最優秀賞に選出された団には表彰状を伝達した。



発表の様子



表彰の様子

(3) 成果

少年団の地域活動への支援を行い、活性化を図った。

(4) 今後の課題と取組

より多くの県下みどりの少年団が充実した活動を実施することができるよう、継続した支援を行うとともに、支援について広く周知を図る。

また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、内容をさらに拡充させた研修会や活動を実施する。

Ⅲ－５ 「森の子学校」体験活動推進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県立香々地青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・子どもの体験活動の充実
体験活動を推進することによる児童生徒の自己肯定感の向上
森林学習はSDGsに貢献、気候変動・災害と密接に関連
- ・大分県の林業の課題
人工林への対応・災害に強い森づくり・担い手育成
- ・学びと連動した体験活動
理科・社会などの各教科と関連付けた森林の役割や保全の学習が必要

(2) 目的

社会教育施設である青少年の家を活用し、学校教育と連動した事前学習、直接体験、事後学習からなる学習プログラムを実施することにより、次世代を担う子どもたちへの森林・林業教育の推進を図る。

(3) 事業内容

- 1 森林・林業教育プログラムの体系化
(1) プログラム検討委員会 (2) フィールド整備
- 2 モデル校によるプログラム実践
香々地・九重青少年の家での集団宿泊研修に森林・林業教育プログラムを活用する学校に事前学習・直接体験・事後学習からなる学習プログラムの提供とモデル校による森林・林業プログラムの実践

3 成果

県内小学校13校、中学校2校で森林や林業に関する事前学習・直接体験・事後学習を実施することで、学校教育での森林・林業教育を推進することができた。

参加子ども数が247名(R4)から692名(R5)と拡大した。

4 今後の課題と取組

森林・林業教育プログラムモデル実践校の目標数を令和5年度と同じ15校とし、その実績をもとにさらに広報を充実させ、実践校を募る。また、実施できるプログラム数を10個以上に増やし、内容を充実させる。

5 実施状況写真



事前学習の様子



林業体験



落ち葉の下の生物観察



花炭づくり

Ⅲ－６ 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県立九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・児童・生徒の自然体験活動・環境学習機会の不足。
- ・森林環境学習指導者の減少および高齢化

(2) 目的

森林環境学習を推進するため、森林環境学習指導者の養成と児童・生徒への学習機会の提供を行う。

また、子どもたちの体力・運動能力の向上を図るとともに、木への親近感を高めるため、運動遊びを通じた体験活動を行い、幼児期から木や森の魅力を体感できる機会拡充を図る。

(3) 事業内容

- ①幼児期からの環境学習に関する学習機会の提供
- ②森林環境学習指導者の資質向上及び新たな指導者養成
- ③自然環境での運動（遊び）の推進

3 成果

緑の子ども園・緑の楽校（R4 から「森の子レンジャー」）事業満足度

年度	R1	R2	R3	R4	R5
目標	90%	90%	99%	99%	99%
実績	100%	99%	100%	100%	94%

緑の探検隊（R4 から「森の楽校」）生きるカプラス変容（R3 から環境意識プラス変容）

年度	R1	R2	R3	R4	R5
目標	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%
実績	11.2%	12.2%	12.1%	14.9%	13.1%

※独立行政法人国立青少年教育振興機構が開発した IKR 評定により数値化した、探検隊参加前後の、子どもたちの「生きる力」の増加率

※令和3年度より調査方法を IKR 評定から環境意識調査へ変更

森林の環境学習サポート隊 事業参加者数

年度	R1	R2	R3	R4	R5
目標	800名	800名	800名	800名	800名
実績	1,241名	348名	394名	441名	448名

4 今後の課題と取組

- ・次代を担う子どもたちの自然環境に対する興味・関心を高め、「生きる力」を育むことができる事業実施を図る。
- ・子どもたちの森林環境学習機会の増大にむけ、森林環境学習指導者の拡大と指導力向上につながる研修の充実を図る。
- ・子どもたちの森林や木への関心を高めるとともに、体力・運動能力・精神力の向上を図るための、環境学習を推進する。

5 実施状況写真



【森の子レンジャー】



【森の楽校】



【環境学習サポート隊】

Ⅲ－７ 特別支援教育振興事業

【特別支援教育課】

1 実施主体

大分県教育委員会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・障がいによる活動の制限
障がい種や障がいの状況によっては、森林等での自然体験活動を行うことが困難である場合が多い
- ・身体活動や自然体験活動の減少
コロナ禍の影響で、密になりがちな体育の種目や自然体験活動が中止になるなど、身体を使った活動や自然と触れ合う活動が減少
- ・設備の充実
体力の向上のための設備の充実や、森林や木材に対する知識・理解を向上することが課題

(2) 目的

安全な木製屋内遊具を導入することで、特に障がいや重度な児童生徒が安心して体育科や自立活動*の授業に取り組める環境を作り、体力の向上を図る。また、林業副読本の動画教材を活用することで、自分たちの活用している遊具をはじめとした木製製品を構成している木材に対する知識・理解の向上を図る。

*自立活動…障がいによる学習上・生活上の課題を改善・克服するための指導

(3) 事業内容

1 安全な木製屋内遊具の導入

対象：県内特別支援学校 15 校

(さくらの杜高等支援学校・別府支援学校石垣原校除く)

- ・特に障がいや重度な児童生徒が安心して体育科や自立活動の授業に取り組める環境を作り、体力の向上を図る。
- ・木材の特有の手触りやなめらかさ、温かさを感じる

2 林業副読本の活用

対象：県内特別支援学校 17 校（さくらの杜高等支援学校含む）

- ・副読本の動画教材を活用することで、遊具を構成している木材がどのような環境で、どの様に育まれているか、知識・理解を向上する

3 成果

1 安全な木製屋内遊具の導入

- ・木材の手触りや温もりを感じながら活動を行うことができた。
- ・木材の柔らかい手触りや木の温もりを感じながら活動できた。
- ・揺れる感覚を楽しみながら、繰り返し活動することで情緒の安定が見られた。

- ・ 感触の違いを手や足で感じたり、感じたことを言葉で伝えたりして楽しむことができた。
 - ・ 足裏や足先に刺激を与え、脱感作*することができた。
- *脱感作…感覚の過敏が見られる場合に、知覚過敏を排除する方法

2 林業副読本の活用

- ・ 特別支援学校で行われている「木工作业」で、自分たちの使っている木材が森林から製材となる過程を理解した
- ・ 動画で紹介されていることで、理解が深まった

4 今後の課題と取組

木製屋内遊具と林業副読本の活用を継続し、体力と知識・理解のさらなる向上を図る。

5 実施状況写真



Ⅲ－８ 未来の環境を守る人づくり事業

【環境政策課】

1 実施主体

大分県（委託先：おおいたうつくし推進隊、NPO法人、ボランティア活動などの社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

様々な環境問題の解決のためには、子どもの頃からの実体験を伴う環境学習が重要であるが、学校現場においては時間や予算がないといった理由により、年間を通じた計画的な環境学習が十分には実施されていない。

他方、環境学習に取り組む団体もあるが、資金面の問題から単発的なものが多く、体系的な活動が困難な場合が多い。

（２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもたちが環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考えて行動する力を育成し、環境保全の取組の担い手となってもらう。

（３）事業内容

①おおいたこども探険団推進事業

県内の子どもたちに対する自然体験活動など、年間を通じて実体験を伴う環境学習を行う事業を県が団体に委託して実施する。

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

地域や小中学校、企業などで行われる環境に関する勉強会などに、各分野の専門知識を有した環境教育アドバイザーを派遣する。

3 成果

環境教育アドバイザー派遣事業については、前年度に比べ派遣数も受講者数も増加し、地域や学校、職場などにおける環境教育の機会を提供することができた。

①おおいたこども探険団推進事業

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
採択団体数	1 2	8	9	9	9
受講者数（人）	約 2, 0 0 0	約 6 0 0	約 2, 0 0 0	約 1, 0 0 0	約 1, 0 0 0

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
派遣実績（人）	1 6 5	9 6	1 1 4	1 5 3	1 8 7
受講者数（人）	8, 6 9 6	3, 4 8 6	5, 8 2 2	7, 1 6 9	9, 3 6 3

4 今後の課題と取組

おおいたこども探険団推進事業については、活動を実施する場の拡大や、希望する団体について県環境教育アドバイザーの助言を受けることができる体制を強化し、事業応募団体の多様化と、団体のレベルアップを図っていく。

環境教育アドバイザー派遣事業については、アドバイザー登録者の増加及び企業への派遣促進に向け取り組んでいく。

5 実施状況写真



①おおいたこども探険団推進事業
業

佐伯地域ユネスコエコパーク推進協議会
(サバイバルデイキャンプ)



②大分県環境教育アドバイザー派遣事

(田んぼでの環境学習)

Ⅲ－９ 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業

【高校教育課】

1 実施主体

高校教育課が行う事業において、日田林工高校林業科を対象に実施

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

高齢化などにより林業経営体数が減少しており、森林荒廃や農山村の崩壊が危惧されている。そのような中、日田林工高校林業科では、専門性を活かした教育を実施することで、大分県林業に貢献できる人材を育成しており、今後さらに林業関連の就職者・進学者を増やしていくことが求められる。

(2) 目的

県林業を牽引する担い手の育成では、森林・林業管理の効率化・省力化が期待できるスマート林業を活用するなど、先端的な森林管理の考え方や手法を直に学ぶ体験を通して、地域林業における課題意識を持たせ、その解決に向けた意欲喚起を行う。併せて、小中学生に対しても森林管理の重要性を伝え、林業の裾野を広げることにも取り組む。

(3) 事業内容

①外部講師招聘授業

スマート林業として林業界における進出が著しいドローンの活用について外部講師を招聘し、屋内におけるドローン操縦の体験やドローン利用実態の状況に関する学習等を通して先進技術身に付ける。

②GE（グリーン・エデュケーション）事業 <小中学校への出前授業>

小中学生を対象に、高校生が先生役となり、環境と森林の関係や林業科の学習内容を理解してもらうとともに、高校生自らが教えることにより、自分たちが学んでいる林業についての理解を深める。

③事業所見学（新栄合板株式会社）

木材関連企業の実態を見学することにより、専門教科に対する興味関心を高めるとともに、望ましい職業観を養成し、進路選択の指針とする。

④国内研修（宮崎県）

全国有数の林業県でもある宮崎県で、スマート林業や木材利用に関する技術や、スギ材に関する先進的かつ持続可能な森林・林業管理を学び、林業に関する知識や技術を向上させ、視野を広げるとともに思考を深める。また、他県の人々と交流を持つことで、産業における地域性を知るとともに、郷土愛等の醸成を図る。

3 成果

① ドローン研修

林業を中心とした地元産業において、ドローンがどのように利用されているか等のプレゼンテーションを見て、林業の現況を知ることができた。また、ドローンの操縦体験では、繊細なレバー操作を体験し、基本的な操作を習得することができた。

② GE事業 東溪中学校

林業科3年生 7名が3つのグループに分かれ、中学生に対する出前授業を行った。

- ・1年生 集成材による椅子作り
- 2年生 環境への取り組み 森林の効用
- 3年生 紙のリサイクル ドローンによる樹高測定
- ・中学生 感想

年齢の近い身近な高校生が木材や紙のリサイクルについて説明することにより、中学生も興味深く聞く姿勢が見られた。中学校の教員に対しても林業科の紹介ができ高評価であった。中学生と教員のコメントも概ね良好なものであった。

③ 林業科3年 事業所見学

卒業後の進路先を決定する上で、専門教科に特別関係の深い企業の工場等を見学することにより、座学ではわからない現場の雰囲気や完成後の製品、製造する機械を知り、受験先決定に非常に役立つ学習が行えた。

④ 国内研修（宮崎県）

林業科2年生から参加希望者を選抜し、全国でも有数の林業県である宮崎県において3泊4日の研修を行った。研修先は宮崎県の林業研究施設や林学が学べる大学の演習林、国有林を管理する森林管理署、国内最大級の森林組合およびスギ製材量第1位である製材会社とした。宮崎県の研究施設では、生徒は特にスギに特化した研究に高い関心を示していた。また、照葉樹林帯の見学や樹木の試験林なども見応えがあり、興味深く研修に取り組めた。

4 今後の課題と取組

今年度の研修を終えて懸念される来年度の課題は、学校行事など多くの研修や各種事業との調整が必要となるため、実施する時期の選定を早めにするのが大切である。

国内研修では、現在の温暖化する森林環境を鑑みて温暖地での研修の必要性を感じた。令和元年度にくじゅうアグリ創生塾が実施した海外研修（台湾）との連携も含めて考えたい。また、地元小中学校への林業学習普及に関するGE事業も引き続き継続していきたい。

5 実施状況写真

【関係写真】

○GE 事業 東溪中学校



GE 事業 森林の効用



GE 事業 森林の効用

○ ドローン講習会



ドローン操縦体験



ドローン操縦体験

○事業所見学



合板工場



合板工場



プレカット工場



プレカット工場 (CAD)

○ 国内研修 宮崎県



国内研修 宮崎県林業技術センター



耳川広域森林組合 製材工場



宮崎大学 田野演習林



宮崎県木材利用技術センター

Ⅲ－１０ 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進事業

【自然保護推進室】

1 実施主体

佐伯市

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

観光客等の安全性・快適性の向上など、受入れ環境の向上・改善が求められている。

(2) 目的

ユネスコエコパークエリア内に所在する老朽化した国定公園施設等を整備し、森林レクリエーション環境の改善と、自然と共生した地域振興を図る。

(3) 事業内容

佐伯市藤河内溪谷の遊歩道の整備 (L=23.0m)

3 成果

老朽化した施設の改修などにより、安全性の確保や快適性の向上に寄与することができた。

4 今後の課題と取組

生態系の保全と、自然と調和した持続可能な地域の発展を図るため、今後も引き続き国定公園施設等について、保全・改修等を行っていく。

5 実施状況写真

祖母・傾国定公園施設整備事業 藤河内溪谷遊歩道観音滝線整備工事



(実施前)



(実施後)

Ⅲ－１１ 森・川・海つながり実感！プロジェクト

【全国豊かな海づくり大会推進室】

1 実施主体

第43回全国豊かな海づくり大会大分県実行委員会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

「豊かな海」の環境は、栄養豊富な水を供給する森林や河川と密接な関係にあり、多様な生物が暮らす「豊かな海」を次世代に継承するためには、海、川はもちろん、森の環境を保全することが重要である。

自然環境の保全については、林業関係者や漁業関係者だけでなく、県民の環境保全に対する意識向上が欠かせないが、県民が森・川・海をつながりを一体的に学べる機会は乏しい。

(2) 目的

森・川・海をつながりと自然環境の保全について、県民の理解を得るとともに環境保全への関心を高める。

(3) 事業内容

県内小学生（4～6年生）を対象に、森、川、海の各フィールドの専門家による自然環境や生物についての説明や、様々な野外活動を体験してもらうツアー型の体験プログラムを実施した。

3 成果

体験プログラムを下記3コース開催し、計45名の参加があった。

応募者は合計179人であり、本事業のように体験学習等を通じて自然環境について学ぶ機会を多くの県民が望んでいる様子が伺えた。

プログラム終了後に参加者にアンケートを実施したところ、「自然環境の保全の重要性」について「とてもわかった」「わかった」との回答が全コースで97%以上（44人/45人）で、プログラム参加者に対して学びの機会を提供することができた。

(プログラム概要)

	開催日	参加者	開催地	内容
①	9月2日(土)	16人	大分市 由布市	・男池湧水群(自然観察) ・大分川(野鳥観察) ・水族館うみたまご(バックヤード見学)
②	9月16日(土)	14人	中津市	・山国川(淡水魚等の観察) ・中津干潟(生物採取体験等)
③	9月30日(土)	15人	佐伯市	・番匠川(淡水魚等の観察) ・魚付き保安林 ・間越海岸(地引網体験など)

4 今後の課題と取組

令和6年11月9日・10日に開催される「第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～」を契機に、自然環境の保全に対する県民の意識向上をさらに促進する必要がある。

引き続き体験プログラム等の学びの機会をより多くの県民に提供し、自然環境の保全についての取組を推進していきたい。

5 実施状況写真



コース①
(ガイドによる森の説明)



コース②
(ガイドによる川の説明)



コース③
(ガイドによる生物の説明)



コース①
(バードウォッチング)



コース②
(干潟での生物採取体験)



コース③
(地引網体験)